

日(曜)	時刻	水位 cm	流速 目視	流量 m <sup>3</sup> /分	雨量 mm	気温 °C	水温 °C	PH	電導率 マイクロS	その他(生物、透視度等)					
										ア	オ	ザ	ス	その他	
1	水	18:25	19.8	良流		28.9	30.0	7.7	230			2	8	ドジョウ大1 カワカゲロウ1 ヒグラシ(多)	
2	木	18:30	19.4	良流		30.1	30.8	7.7	250			4	5	ドジョウ1 カワカゲロウ2 ヒグラシ(多)	
3	金	18:30	19.4	良流		29.8	30.0	7.7	280			5	5	テナガエビ1 カワカゲロウ1 ハグロトンボ2	
4	土	18:45	18.7	薄泥流		27.3	29.6	7.6	220	2		14	4	タモロコ1 雨5c雷雨 ヒグラシ(多)	
5	日	18:45	18.8	良流		28.1	30.4	7.5	320			9	7	カワカゲロウ1 ツバメ16 ヒグラシ(多)	
6	月	18:40	18.9	良流		28.1	29.5	7.6	250			9	4	ドジョウ1 ツバメ18 ヒグラシ(多)	
7	火	18:35	18.9	薄泥流		23.1	23.9	7.8	160		1	5	6	カワカゲロウ1 雨5c (オイカワ婚姻色)	
8	水	18:40				24.1					1	10	1	雨24c	
9	木	19:05	20.2	薄泥流		26.5	27.3	7.6	172			12	6	ドジョウ大1 テナガエビ1 ヒグラシ	
10	金													↑	
11	土	18:25	19.0			31.6	29.9	7.7	250					雨55c (主也測定) 外出	
12	日													↓	
13	月	18:10				24.3								雨4c クマゼミ初聞き	
14	火	18:30	18.5	良流		21.6	28.9	7.9	210			10	3	カワムツ2 カワカゲロウ1	
15	水	18:35	17.5			27.0	28.7	7.5	240			8	1		
16	木	18:05	18.0	良流		27.8	27.3	7.7	240			5	3	ドジョウ1 カワカゲロウ2 ヒグラシ(多)	
17	金	18:20	16.6			24.6	25.5	7.7	220			8	1	ドジョウ1 カワカゲロウ2 ゴイサギ1	
18	土	18:20	16.8			22.3	24.3	7.9	310		1	4	3	タモロコ2 カワカゲロウ1 ヒグラシ	
19	日	18:10	15.6			23.2	24.3	7.8	270			5	1	ギバチ1(赤ちゃん) ヒグラシ	
20	月	18:25	20.0	白濁		24.0	24.9	7.7	270			4	1	ヨコエビ1 ハグロトンボ1	
21	火	18:25	14.7			26.8	26.8	7.6	370	1		10		カワカゲロウ2 ヒグラシ	
22	水	18:15	17.5			27.0	29.2	7.6	250			6		テナガエビ1 アブラゼミ ヒグラシ	
23	木	18:15	14.8			28.4	28.7	7.6	250			15	13	ツバメ6 ヒグラシ	
24	金	18:40	19.4	泥濁		26.7	26.7	7.8	134			5	2	雨55c (アシナガバチ被害)	
25	土	18:30	15.6			28.9	29.1	7.5	270	1		3	5	ドジョウ2 アブラゼミ	
26	日	18:25	14.1			29.1	30.2	7.6	240			8	4	ツクツクボウシ アブラゼミ	
27	月	18:20	18.1	良流		28.9	30.3	7.6	250	1		11	14	カワカゲロウ1	
28	火	18:30	17.3	薄泥流		25.3	27.4	7.6	169			7	12	(秋の虫)	
29	水	17:50	16.8			26.3	26.8	7.8	220			3	2	ドジョウ1 雨5c ツクツクホーシ (秋の虫)	
30	木	18:20	17.2			27.4	28.2	7.7	240			9	4	(秋の虫)	
31	金	17:55	17.1			28.3	29.2	7.8	260		1	2	4	アブラゼミ ヒグラシ	
計			17.7	良8		86	26.7	28.1	7.7	242	5	4	193	119	ドジョウ9 テナガエビ3 タモロコ3 ギバチ1

## 特記

カワムツ2 カワカゲロウ13 ヨコエビ1  
 降雨後急上昇し少しずつ下がっていくという、水位の自然な変化が少なく、上流の河川工事など人為的な要因が考えられる。  
 水温が過去最高になっていて、気温の記録的な高温を反映している。オオブタクサは花粉症を引き起こし数年にわたって発芽し  
 続け、水際の株は土を掴んだまま流されていくやっかいな外来種である。種を結ぶ前に両岸とも除去することが出来て安堵した。  
 カワムツ・ギバチがしばらくぶりに観察できた。この水域で繁殖しているのだろう。